

【補足資料】※保険薬局内での共有の際などにご利用ください

～服薬アドヒアランスについて～

服用アドヒアランスの低下により、再発リスクの上昇に影響を及ぼす可能性があります。

～併用薬について～

タモキシフェンと強い Cyp2D6 阻害薬（パロキセチン）

- ・タモキシフェンの薬効低下 ⇒再発リスク上昇 ⇒類似の抗うつ薬等へ変更を提案

タモキシフェンとワルファリン

- ・ワルファリンの代謝阻害による抗凝固作用の増強 ⇒PT-INR の変動、出血の注意喚起

アロマターゼ阻害剤と SERM（ラロキシフェン、バゼドキシフェン）

- ・アロマターゼ阻害剤の再発抑制効果低下 ⇒他の骨粗鬆症治療薬へ変更を提案

乳癌とホルモン補充療法

- ・再発リスク上昇のため禁忌 ⇒ホルモン補充療法の中止を提案

（上記対応を行った場合は「特記事項」に記載）

- ・乳がん発症リスクを低下させるために健康食品やサプリメントを摂取することは勧められません。必ず医師に情報共有し、判断を仰ぐよう促しましょう。

～受診が必要な症状～

・不正出血（子宮内膜異常）について

抗エストロゲン剤の服用により子宮内膜癌（子宮体癌）の発症リスク上昇が報告されています。特に閉経後の患者に多いです。しかし子宮体癌検診は侵襲的な検査が多く、定期的な受診は推奨されないため、初期症状である不正出血を見逃さないことが重要です。

・アロマターゼ阻害薬服用中の生理再開について

卵胞刺激作用により、一度閉経と判断された患者でも生理が再開することがあります。タモキシフェンへの変更や LH-RH 製剤の追加が必要となる場合もあるため、受診勧奨の対象となります。

・ 手術側の upper limb のリンパ浮腫・蜂窩織炎について

乳房に加えて周辺のリンパ節まで手術（腋窩リンパ節郭清）した場合、手術した側の腕にリンパ浮腫が好発します。そこに菌感染を起こすと蜂窩織炎を発症することがあります。症状である発赤・腫脹・発熱・疼痛を見逃さないことに加え、保湿による皮膚保護を促し、蜂窩織炎を予防することが重要です。

・ 血栓塞栓症について

ホルモン療法の多くは血栓形成のリスクを伴います。下腿に好発し、血栓ができている側の足が浮腫を起こすことが多いため、片足だけが浮腫んでいるような場合は特に注意です。普段から水分摂取を行い、適度な運動などで足を動かし、血栓を予防することが重要です。

～報告すべき症状（緊急性なし）～

服薬アドヒアランス低下を招く要因の大部分です。日常生活が困難となっている場合は、早めの受診を勧めて、処方変更や一時休薬、対処療法などを検討してもらいましょう。

～転移を疑う症状（前月と比較して急激に増悪している場合）について～

- ・ 骨転移の疑い： 痛み しびれ（部位： ）
- ・ 肺転移の疑い： 咳 息切れ
- ・ 脳転移の疑い： 頭痛 めまい 麻痺 嘔吐
- ・ 局所再発疑い： 手術部位周辺の皮膚の発赤 首や脇のしこり

（これらの症状を聴取した場合は「特記事項」に記載し、場合によっては受診勧奨）

高槻地域薬局間連携がん研修会
大阪医科薬科大学病院薬剤部